

# 映画「ちむぐりさ」

～菜の花の沖縄日記～

## 上映会&平良いずみ監督講演会

とどいてほしい ひとりの少女が紡いだ言葉  
あなたが知らない 沖縄の明るさの向こう側

期日 8月7日 (水) 会場/本願寺長野別院(西後町)

＝日 程＝

- 13:30～受付 (定員80名先着順)
- 14:00～映画上映会
- 16:00～監督講演会&意見交換会
- 16:40～閉会 当日は、関連書籍を販売いたします。
- 参加費 ￥500 — ※18歳未満学生さんは無料
- 会場/本願寺長野別院 講堂

申込方法/8月2日(金)までに、  
下記参加申込書記入、若しくは  
WEBにて申込みください。

ホームページ [nagano-hongwanji.jp](http://nagano-hongwanji.jp)



※公共交通機関にてご来場のご協力をお願い致します。



○申込み/問合せ 浄土真宗本願寺派 本願寺長野別院/長野教区教務所  
〒380-0845 長野市西後町 1653 電話 026-232-2621 FAX235-0210  
メール [nagano-b@io.ocn.ne.jp](mailto:nagano-b@io.ocn.ne.jp) 共催: 信濃毎日新聞社/ビハーラ長野/長野教区河西組

..... 2024(令和6)年度 長野別院人生講座参加 参加申込書 (FAX026-235-0210) .....

○お名前 \_\_\_\_\_

○連絡先 \_\_\_\_\_

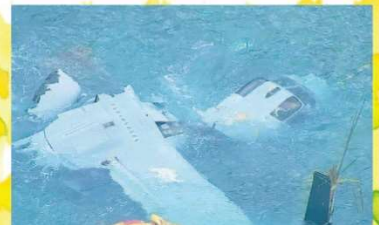
備考「No. \_\_\_\_\_」

# ちむぐりさ あなたが悲しいと、 私も悲しい。

沖縄の言葉、ウチナーグチには「悲しい」という言葉はない。それに近い言葉は「肝ぐりさ」。誰かの心の痛みを自分の悲しみとして一緒に胸を痛めること。それがウチナーンチュの心、ちむぐりさ。

そんな沖縄に、ひとりの少女がやってきた。北国・能登半島で生まれ育った、坂本菜の花さん、15歳。彼女が通うのは、フリースクール・珊瑚舎スコーレ。既存の教育の枠に捉われない個性的な教育と、お年寄りも共に学ぶユニークな学校だ。70年あまり前の戦争で学校に通えなかったお年寄りとの交流を通して彼女は、沖縄ではいまなお戦争が続いていることを肌で感じとっていく。次々に起こる基地から派生する事件や事故。それとは対照的に流れる学校での穏やかな時間。こうした日々を、彼女は故郷の新聞コラム「菜の花の沖縄日記」(北陸中日新聞)に書き続けた。「おじい なぜ明るい?」。疑問から始まった日記は、菜の花さんが自分の目で見て感じることを大切に、自分にできることは何かを考え続けた旅物語だった。少女がみた沖縄の素顔とは――。

沖縄テレビの開局60周年記念作品。監督は平良いずみ。第38回「地方の時代」映像祭グランプリに輝き、話題となったテレビドキュメンタリー「菜の花の沖縄日記」に未公開シーンを加えいよいよ劇場公開。



## ちむぐりさ

沖縄では、米軍基地周辺で子どもの命を脅かすことが頻発している。もし、自分の子どもや孫が通う学校に、重さ8キロもあるヘリの窓が落ちてきたら…。想像してほしいと、菜の花さんは懸命に言葉を紡ぎ続けた。その澄み切った彼女の姿と言葉は、分断が進む時代にあって「希望、そのもの。映画で描いているのは、ひとりの少女の小さな小さな声―。でも、その声が、県境を、国境を越えて、きっと誰かの心に届く。そう、信じています。監督 平良いずみ

Twitter・Facebook  
▶▶▶@chimugurisa  
www.chimugurisa.net  
監督▶▶▶平良いずみ 語り▶▶▶津嘉山正種  
プロデューサー▶▶▶山里孫存 未吉敦彦  
製作▶▶▶沖縄テレビ放送 配給▶▶▶太秦  
▶▶▶2020/日本/DCP/カラー/106分  
©沖縄テレビ放送

### ◎行事案内「非戦の鐘」◎

非戦の鐘は、8月15日終戦記念日に、11時から非戦・反戦の誓いを込めて、お寺の梵鐘を鳴らします。皆様のご参加をお待ちしております。

●会場/本願寺長野別院 ●日時/8月15日(木) 午前11時~12時

### ◎本願寺長野別院創立100周年記念法要◎

期日/2024(令和6)年10月26日(土)~27日(日)

※お稚児さん・帰敬式受式募集中 詳細は、ホームページをご覧ください。

